

第 22 回

# 日本手話教育 研究大会

手話教師  
センター

2023 年

2 月 11 日 (土)

10 時 ~ 16 時

zoom によるオンライン開催

午前の部 10時~12時 基調講演 ※ 大会終了後にアーカイブ配信いたします

## 手話教育における実践的見識の蓄積に 教育心理学が貢献できること

松崎 丈 氏

私は、教育現場で起こる様々な現象を心理学的に解明し、そこからその現象をより良い状況へと変革していくために必要な教育的対応を仮説し、教育現場で実践してみるといった教育心理学的アプローチで教員研修や学校支援に取り組んでいます。ナチュラルアプローチで手話教育を実践している現場においても同様のアプローチで行い、そこで見えてきた実践的認識は何かについて、関連する現象を具体的に紹介しながら説明します。

**教育歴:** 大分県立聾学校幼稚部、小学校~高校は地域の学校、宮城教育大学で聾学校教諭専修と中学校・高等学校教諭一種(美術)を取得し、東北大学大学院で博士(教育学)を取得。博士論文で総長賞受賞。現在は、宮城教育大学教授(特別支援教育専攻聴覚・言語障害教育コース担当)、同大学しょうがい学生支援室副室長。

### ●著書(手話関連で主要なもの)

- ①松崎丈(2005)ろう児の手話言語発達における物語産出に関する研究:ろう学校幼稚部を対象に。東北大学大学院教育学研究科博士論文。
- ②吉川あゆみ・松崎丈・白澤麻弓・石野麻衣子・中島亜紀子(2012)大学での手話通訳ガイドブック-聴覚障害学生のニーズに応えよう!-。筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター。
- ③松崎丈(2018)ろう重複障害児との手話を主とするコミュニケーションの形成を目指した実践研究。宮城教育大学紀要, 52, 241-257。
- ④松崎丈(2022)研究者から見たろう・難聴児のこぼの発達と概念形成。バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター(監修)聞こえなくても大丈夫!-人工内耳も手話も。ココ出版。13-23。



内容については  
裏面をご覧ください

使用言語 ▶ 日本手話

※日本語への通訳は  
ございません

休憩

12時~14時

CM

(研究)ポスター発表

午後の部

14時~16時

登壇 研究発表

大会参加費

- ・予稿集 (PDF)
- ・アーカイブ配信 (基調講演のみ)

法人会員・サポーター ▶ 2,000円

一般 ▶ 2,500円

支払方法 … **PayPal** ペイパル による決済

### 【申込みの流れ】

- ①申し込み後、3週間以内にNPO法人手話教師センターより「PayPalご入金のお願ひ」のメールが届く
- ②内容を確認しPayPalでご決済  
※ご決済後のキャンセル払戻しは  
できませんのでご注意ください
- ③入金完了確認メールが届く
- ④本大会の1週間前に案内・招待URLメールが届く

申込み  
方法

こちらの「QRコード」  
もしくは  
申込みURLよりお申し込みください。  
<https://forms.gle/u9uBbVAG1KaHXQf59>



申込み〆切: 2023年1月22日(日)

【主管】「第22回 日本手話教育研究大会」実行委員会  
<Mail> jslt.rm@gmail.com

◎日本手話教育研究大会Facebookもご覧ください→



休憩(12時半～)◆ポスター発表

※2つのZOOMミーティングで同時進行します

「対義語の分類」<集中研修/語彙グループ>



NPO法人手話教師センター

澤田利江 小林充 武内晴香 渡邊好行

1つの語彙から対義語を出し、その語彙からまた対義語を出すと、最初の語彙と必ずしも一致しないことがわかった。そのため、対義語に関し分類と整理が必要と感じた。

調査は/朝飯前/、/辛い/朝飯前/の手話動画等を日本手話話者に見せ、対義語は何か、また、回答した対義語の、またの対義語は何か回答してもらった。

これらの調査の回答傾向および最初に出した語彙と一致するかどうか結果をまとめた。

「否定疑問文の回答」<集中研修/文法グループ>



NPO法人手話教師センター

越後節子 佐沢静枝 高橋喜美重 真間敦子

否定疑問文の回答時に発生する首振りや頷きに決まった文法的なルールがあるかどうか、を検証したく、質問調査を実施して分析した。

今回は「ご飯はいらないの?」「ご飯はないの?」という2つの否定疑問文に対して5つの回答パターンを用意し、回答に違和感がないかどうかを検証することがねらいてある。調査では手話を第一言語とするろう者と手話歴10年以上の聴者を対象とした。

午後の部(14時～)◆登壇発表

「書きことばとしての日本手話とは?」

明晴学園 研究部

狩野桂子 林雅臣 外園猛 横田いくみ

ろう者は頭の中では常に手話で内省している。その作業は目には見えないが、そのような手話は文章を書いたり、発表したりする際に、聴者が行うメモ書きの草案作りのような、書き言葉的な役割を担っている可能性がある。考えを手話でまとめるプロセスを録画することで、「書きことばとしての日本手話」を可視化できるのではないかと考えた。

手話による発表に向けての作業として、①考えをまとめる、②発表のための練習(内容の深化)、③実際の発表の3種類の手話を録画し、比較検討をすることで、この研究を通して、手話表出のどの部分が「書きことばとしての日本手話」の要素を担っているかを明らかにすることを目的とする。



「日本手話におけるCL構文<壁>の掌の向きの変別について」

株式会社OSBS 手話寺子屋

小北悦子 知久三恵 竹内幸代

協力者:海野和子



<壁>をCLで表すと、手型は変わらないが、掌の向きが2種類ある。この2種類の弁別について、調査をした。<壁>のCLが表わされる表現は、壁がモノと接触した状態の表現と、壁がヒトの行為を受けている状態の表現の2パターンを調査の対象とした。表現の際に<壁>のCLと同時に表される手話の語彙やCLから、<壁>の掌の向きは、どのような変化があるのか。

また、壁には四面(前後左右)あるため、壁の場所が異なった場合には影響があるのか。日本手話を第一言語とするろう者に、インタビューを行い、どのような弁別をしているのか、規則性について分析し、発表する。

「左利きの手話学習者に対する指導法と考察」

国立障害者リハビリテーションセンター学院

手話通訳学科

野口岳史

初めて手話を学習する者が左利きだった場合、手話教師としてどう指導するか。右利きとして学習したい人は従来の指導でかまわない。一方、そうではない場合、どのような場合に特に注意をして指導したら良いだろうか。

本稿では、手話の利き手と非利き手に関する要素を整理した上で、NPO法人手話教師センター会員、左利きの手話学習経験者を対象に、インタビュー調査を行い、左利きの手話学習者に対する指導時に困ったこと、気をつけていること等を広く収集する。ここで得た知見から、今後の左利きの手話学習者に対する指導法について考察を行う。

